

柘植地域

# まちづくりだより

## 第175号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局  
(柘植地区市民センター内)

伊賀市柘植町一〇六四七番地

〒五二九一四〇二

電話 四五・八八八〇 FAX 四五・八八八三

発行日 二〇一六(平成二十八年)十月一日(土)

### 「防災」と「キノコ」、

### 視野を広げて

### まちづくり

### 〜名張の自治に学ぶ〜

女性部会研修会



はじめに名張市防災センターへ。ここでは防災体験学習ができます。地震の場合には、火の元確認、ブレーカーを落とす、机の下など安全な場所にもぐる、頭を抱えて身をだんご虫のように丸くすることが、また消火器の使用については、炎にはなく燃えている物にホースを向けて消火することなどを学ぶことができまし

日頃から避難訓練等に参加して体験・学習するなど、災害時に備えることが大切と実感しました。



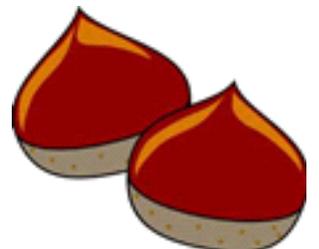
午後からは地縁法人自治協議会「木の里」へ行きました。奈良県境に位置する錦生地区は住民1800人、コメ農家が大半です。「錦生木の里の里生産センター」では旧錦生小学校跡地を利用して生産・加工・販売し、地域の約20軒がきのこの自家生産に協力しています。キノコは地元の武道交流館、学校給食にも卸しています。



また、地域住民のボランティアで構成された「女性くらぶ」の協力で、キノコドレッシングも作っています。キノコはそれぞれ栽培条件・方法・特徴が異なるため、人の手で慈しみ育てながら生産されています。その形の可愛らしさ、新鮮さに魅かれ、参加者23名はたくさんきのこのを買って帰りました。味、菌ごたえは格別で一段と美味しい料理が出来上がりました。



コミュニティビジネスは、地域住民にやりがいのある仕事をもたらし、地域活性化、地産地消にも一役かう一石三鳥の効果があると思います。



# 特集 柘植地域の公共施設

その5

## 柘植公民館

(併設 柘植歴史民俗資料館)

現在の柘植公民館(延床面積896.5㎡)は1959年(昭和34年)7月に竣工しました。それまでは柘植小・中学校の1室を公民館としてた時期もありました。

柘植公民館の施設の概要は1階にホール・会議室・事務所が、2階は和室・会議室があります。施設の使用料については他の公民館と同様に有料です。昨年度は太鼓・ダンス・詩吟などのサークルや柘植仏教会の花まつりなど1年間で2800人程度の利用者数となっています。

写真 上…ホール 中…会議室 下…3偉人展示室



また、柘植公民館の建物内に「柘植歴史民俗資料館」が併設されています。1975年(昭和50年)2階の1室に「歴史資料館」が誕生しましたが、柘植公民館にあった森林組合や商工会の事務所が移転したため、2001年(平成13年)4月に空き室を改修しリニューアルオープンしました。2004年(平成16年)の伊賀市合併時に「柘植歴史民俗資料館」と名称の変更をしました。昨年度の見学者の数は1年間で1,300人程度です。

2階展示室には、いがまち3偉人(松尾芭蕉・横光利一・橋本策)の遺品類等と霊山山頂遺跡等の埋蔵文化財が展示されています。1階展示室には各種の民俗資料の展示と年4回の企画展を実施しています。

現在、上写真の「加太越奈良道見取絵図(柘植編)の拡大模写絵」とこの街道を駆け抜けた人々10話を、10月12日から1月8日までは「小説家横光利一文学碑展」をおこないます。企画展示は出来るだけ柘植に係わりのある内容に努めています。

その6

## 道の駅いが

### 伊賀サービスエリア



6㎡)です。

特産品売場では、地元でとれた野菜や伊賀地域の特産品が購入でき、レストランでは、地元の食材を使ったオリジナルメニューが楽しめます。

また、交流コーナーには、忍者をテーマにした「だまし絵」などもありますし、「道の駅」には珍しいコンビニ二十特産品売場の売店、ドッグラン、EV急速充電機(下写真)が、24時間いつでも利用できます。



浄水能力 2000m<sup>3</sup>  
 設置年度 昭和48年  
 経過年数 43年  
 朝古川水源…表流水  
 岡鼻水源…表流水

平成26年度実績  
 一日平均取水量  
 1,498m<sup>3</sup>/日

伊賀市水道事業基本計画案によると、朝古川浄水場は廃止が予定されています。

国道25号線(旧道)を亀山市方面へ向かい、新朝古橋渡つてすぐを右折。県道加太柘植線(677号)を道なりに、名阪国道伊賀大橋の下をくぐって上流へ進むと左側に施設が見えてきます。



その7 **朝古川浄水場**  
 名阪加太トンネル付近の南側にある浄水場です。柘植地域においては、昭和36年に前川地区において簡易水道が創設されたのが始まりです。昭和40年には、柘植拡張簡易水道事業が開始、昭和48年には、西柘植・壬生野と合わせて、伊賀町水道事業として給水を開始しました。

◎アクセス◎

伊賀インターから

## 土砂や流木を出さない森林づくり



平成27年度災害緩衝林整備事業  
 みえ森と緑の県民税事業  
 (三重県・伊賀農林事務所事業)

朝古川浄水場付近から南に入り込んだ木落谷の溪流部危険箇所を対象に実施されました。

3月23日に着工、7月29日に完成。  
 約1000万円の費用で実施されました。



<概要>

豪雨時などに、溪流や溪岸で流木化の恐れのある危険木伐採や撤去を実施しました。過密な森林の立木密度を下げて樹幹の肥大成長、根茎の発達を促します。

また溪流沿いの山腹では、樹木が根を張り、土砂や流木を抑制するように、調整伐が行なわれました。



みえ森と緑の県民税のしくみ

県内に住所がある個人には、年額1000円を納めることになっています。

事業実施を示す標識→  
 (木落谷入口にあります)



# 「オよい はひけろ」

## ～MAKE D な体育祭～



3年生18名(男子12名、女子6名)

### 柘植中学校体育祭

9月17日(土)午前、柘植中学校の体育祭が開催されました。今年からは、半日開催となりました。生徒のみならず、跳んではねて、走って引っ張って、元気に取り組んでいました。

市民や市行政等が、それぞれの立場を尊重し役割を認識して

### 地域公共交通の活性化を

9月27日(火)夜、伊賀支所にて、今年度1回目の公共交通活性化再生協議会がまち会議が開かれました。柘植地域からは、「柘植駅を核とした公共交通のあり方検討委員会」から松山宗達さん(小杉区)と「健康福祉部会」から柘植美智代さん(倉部区)をま



ちづくり協議会として推薦し出席していただきます。柘植さんは地域部会の副部長もつとめていただいています。

柘植地域を走る行政サービス車についての事業実績は、たいへん悪い状態との報告がありました。

平均乗車人数は1便につき1・4人。また乗客1人当たりに係る費用のうち、バス代として200円を本人が、そして2000円を市が負担している計算となるそうです。こうした現実をひまね、「見直し」が喫緊の課題となっております。

### 郵便物消印問題!

「三重・上野」「名張」  
→「四日市西」

今年度から伊賀地域で郵便ポストに投函される郵便物の消印が、「日本郵便の全国的な集配業務と物流の合理化・効率化」により「四日市西」となったことはご存知ですか?

この件を通じて、「地域」を考えるきっかけにしてみたいはいかがでしょう?

### 齋王群行直前ニュース

10月10日は第14回の齋王群行が行われます。

今回は、上村・前川・山出を群行します。地形的な関係で、都美恵神社(上村、上村(前川、山出)都美恵神社の3回、バス移動が含まれます。

都美恵神社境内では、特産品創出実行委員会等の出店がありますのでご利用ください。

### ●事務局だより●

▼9月は年度の半分が過ぎて、取組みの軌道修正をする時期。また防災訓練や齋王群行、各種FWなどまち協の行事が多いときです。区や各組織も同様です。▼「行事の棚卸」が言われま

俳句と写真のコンテストもあります